

《ワクチンの情報》 予防接種を受ける前に、次の説明文を必ずお読みください。

## ◇ヒブワクチン

### ●インフルエンザ菌b型（ヒブ）による感染症について

ヒブ（H i b）とは、インフルエンザ菌b型のことで、インフルエンザウイルスとはまったく別のものです。ヒブは中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎など表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎など重篤な深部（全身）感染症を起こし乳幼児に深刻な感染症を起こす病原細菌です。ヒブによる髄膜炎は、2010年以前は年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推測されていました。そして生後4か月～1歳までの乳幼児が過半数を占めていました。小児の髄膜炎の原因の第1位と言われている細菌です。

### ●ヒブワクチンの効果について

ヒブワクチンはb型インフルエンザ菌による感染症（髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節炎、喉頭蓋炎、肺炎及び骨髄炎など）を予防するワクチンです。

### ●インフルエンザ菌b型（ヒブ）ワクチンの主な副反応

局所反応が中心で、発赤 44.2%、腫脹（はれ）18.7%、硬結（しこり）17.8%、疼痛 5.6%が見られます。全身反応は発熱 2.5%、不機嫌 14.7%、食思不振 8.7%などが認められています。

### ●Hibワクチンの成分について

Hib ワクチンはウシの成分（フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分）が使用されていますが、このワクチンが原因でTSE（伝達性海綿状脳症）にかかったという報告はありません。そのため、このワクチンによりTSEにかかるリスクは理論上は否定できないものの、TSEにかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

## ◇小児用肺炎球菌ワクチン

### ●小児用肺炎球菌による感染症について

肺炎球菌は多くの子どもの鼻やのどの奥にいる、身近な菌です。普段はおとなしくしていますが、子どもの体力や抵抗力が落ちた時などに、いつも菌がいないところに入り込んで、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。肺炎球菌性髄膜炎は死亡例と後遺症例（水頭症、難聴、精神発達遅延など）をあわせると全体の40%近くに達します。

### ●小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種の効果

子どもの細菌性髄膜炎など、肺炎球菌による重い感染症を予防する子ども用ワクチンです。アメリカでは、ワクチンで予防できる肺炎球菌による重い感染症が98%減りました。現在、世界の約100か国で接種されています。このワクチンを接種することで、細菌性髄膜炎や敗血症が激減することが、多くの国から報告されています。

### ●小児用肺炎球菌ワクチンの主な副反応

主な副反応は紅斑、腫脹、発熱です。非常にまれですがショック・アナフィラキシー様症状、けいれん、血小板減少性紫斑病等の重篤な副反応が現れる場合があります。